

高温・干ばつに備えましょう ～うね間かん水～

湖北管内では7/18の降雨を最後に16日間降雨がない状況です。また、大阪管区气象台7/31発表の1か月予報によると、向こう1か月は気温が高く、降水量は平年並の見込みで、平年に比べ晴れの日が多い予報です。

（1）降雨がない時の対応策

6月中旬播きほ場ではすでに開花し始めています。大豆は開花期から登熟期に多くの水を必要とし、子実肥大期までのかん水が重要です。水不足になると落花や落莢、葉の老化促進による減収、青立ちにつながります。

降雨がない場合は、以下を参考に「**うね間かん水**」を行いましょう。

【本葉展開後の場合】

- ・水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「**うね間かん水**」を行いましょう。（→）
- ・排水溝（明渠）から思い切って「うね」の中まで水を走らせ、「うね」の肩を超すぐらいまで、土を湿らせてください。（→排水溝のみの通水では、「うね」の中央まで水分補給できません）



【播種直後から生育初期の場合】

- ・生育が遅れている場合は、本葉5葉期ごろになってから、「**うね間かん水**」を行い、生育を促しましょう。



◎送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分け、数日かけて徐々に入水して下さい。

◎うね間かん水は短時間で行います。ほ場全体に水が行き渡ったのち、ただちに水尻の板をはずして、速やかに排水して下さい。

(2) 播種が遅れた時の対応策

播種が遅れているほ場では、播種量を多くし、晴天が続く場合は播種深度をやや深くしましょう。

○狭畦密播栽培

- ・条間を 30～45 cm に狭め、
播種量を 8～10 kg/10a に増やします。

○播種深度

- ・播種後に晴天が続くと予想される場合は、やや深く（5～6 cm 程度）播種します。

(3) 熱中症対策

○予防ポイント

- ・高温時の作業は極力避けましょう。
- ・喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分補給をしましょう。
- ・単独作業は避け、複数名で作業を行うか、時間を決めて連絡を取り合しましょう。
- ・帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機等熱中症対策アイテムを活用しましょう。



○熱中症が疑われる場合は

（代表的な症状）

- ☞ 汗をかかない、体が熱い ☞ めまい、吐き気、頭痛、
- ☞ 倦怠感、判断力低下

- ・症状が見られた場合は、作業を中断し、涼しい場所へ避難します。
- ・衣類をゆるめ体を冷やす、水分・塩分補給等応急処置をします。
- ・応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう。